

# シームレス地質図でたどる 幸田 文『崩れ』(第1回)

森尻理恵<sup>1)</sup>・中川 充<sup>1)</sup>・斎藤 眞<sup>1)</sup>

## 1.1 はじめに—個人的なきっかけ

まったくの偶然でしたが、著者の一人である森尻は、「ETV2002 祖母・幸田 文への旅」というテレビのドキュメンタリー番組を見ました。これは、エッセイスト青木奈緒(1963～)が、祖母である作家幸田 文(1904～1990)が70歳を過ぎてから山の崩壊取材した作品『崩れ』の現場を、25年後に再訪するというものでした。この時のルポルタージュは、青木奈緒本人によって『動くとき、動くもの』(2005)としてまとめられています。この本も番組も「老齡の祖母・幸田 文は自ら崩壊地に立って、何を考え、何をしようとしたのか、25年後に、祖母が訪れた崩壊地をたどる追体験の旅を追いながら、彼女の視点から幸田 文のひとと作品を探る。」という部分に主眼が置かれていますので、地球科学的にどうこうというものではありません。

しかしながら、この青木奈緒の本とテレビ番組を通じて、幸田 文が崩壊地形に興味を持ち、実際に尋ね歩くことに並々ならぬ情熱を注いでいたことを私は初めて知り、いささか衝撃を受けました。今まで自分が漠然と抱いていた幸田 文の作品とまるで違うものを突き付けられた気がしました。幸田 文の『崩れ』(第1図)を早速購入して読みました。そして圧倒されました。地球科学がこれほど力強く美しく、正面から語られている作品も少ないだろうといたく感動したのです。

『崩れ』は、「婦人之友」に1976年から1977年にかけて14回に分けて連載された随筆です。連載が終わってもことあるごとに手直しをしていたようで、生前に出版されることはありませんでした。幸田 文の死後、1991年に娘の青木 玉(1929～)によって1冊にまとめられようやく出版されたのです。

『崩れ』に出てくる崩壊地形は、おおや大谷崩れ(静岡県)、とんび山崩れ(富山県)、富士山の大沢崩れ、日光男体山の崩れ、ひえだ やま碑田山崩れ(長野県)、桜島、有珠山に及びます。もちろん



第1図 『崩れ』幸田 文(講談社文庫)の表紙。

ん雑誌の企画ですから、砂防事務所と連絡を取り、一般人の入れないところにまで連れて行ってもらい、時にはおぶってもらって山道を進んだようです。

富士山の大沢崩れを訪ねた時の記述を少し引用します。この時の富士砂防工事事務局長さんの言葉に作家は敏感に反応しています。

「だいたい崩れるとか、崩壊というのは、どういうことなんでしょうか」

そうねえ、と所長さんはちょっと間をおいて、地質的に弱いところと言いましょかねえ、という。ふしぎなことにこの一言が鎮静剤のように効いて私は落付いた。はっきりいえば、弱い、という一語がはっとするほど響いてきた。私はそれまで崩落を欠落、破損、減少、滅亡というような、目で見える表面のことのみ思っていた。弱い、は目に見る表面現象をいっているのではない。地下の深さをいい、なぜ弱いかを指してその成因にまで及ぶ、重厚な意味を含んでいる言葉なのだった。知識をもつ人ともたない者との、ものの思い方の違いがくっきりと浮かんでいて、私のあたふたした騒がしさは消されたのだろうと思う。(幸田 文『崩れ』講談社文庫、35-36頁より)

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード：シームレス地質図、幸田文『崩れ』、地すべり、地理情報システム(GIS)、Google マップ

山の崩れやすさの違いは地質が違うから、という、地球科学をやっている人であれば何となく常識として持っている知識がこんなに感動されるのかと驚きました。そして、この面白さを何とか紹介したいと考えるようになりました。しかし、私自身は地すべりや崩壊地形の専門家ではなく、ましてや幸田文学の研究者でもありません。いわば「門前の小僧」が習わぬ経を平然と読むようなおこがましいことをしてしまって良いのかとずっと躊躇していました。

あるとき、20万分の1 シームレス地質図の紹介をする機会があり、表示例を考えていたら、ふと、この『崩れ』という作品を紹介できないかと思ひきました。やってみると結構面白いのです。これでいこうと決めました。

この連載は（全11回）、『崩れ』という随筆作品の紹介でもあり、シームレス地質図の紹介でもあります。連載に当たって、森尻一人では心許ないので、共著者の中川、斎

藤に助力を仰ぎました。地質と文学の両面から、日本の有名な崩壊地形について、思いを馳せていただければ幸いです。

## 1.2 シームレス地質図

幸田 文の本を読む前に、シームレス地質図について少し紹介しておきます。産業技術総合研究所 地質調査総合センターでは、2001年度より20万分の1地質図をベースとした、全国統一凡例による20万分の1日本シームレス地質図（20万分の1日本数値地質図）の作成を行っています。これらはWeb上で公開されている（http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db084/index.html）ほか、DVD（産業技術総合研究所地質調査総合センター編、2009）で出版されています。また、「シームレス地質図」という名称



第2図 シームレス地質図トップページ。  
太い破線で囲んだ部分をクリックする。

は産業技術総合研究所 地質調査総合センターの登録商標となっています(登録第 5435691 号 2011 年 9 月 2 日登録)。

地質図の電子化, シームレス化に関する考えや経緯は脇田ほか(2006, 2008)などにまとめられていますので, そちらをご覧ください。

従来の紙に印刷された 20 万分の 1 地質図幅では, 作成した時代の地球科学観や作成者の違いなどによって, 地質図幅ごとに凡例が異なっていることが多く, 図幅境界で地質境界線や断層・褶曲構造が繋がっていないことが多くありました。各種地球科学情報の基図として, 特に地理情報システム(GIS)の上で地質図を利用するために, 日本全体を統一した凡例(基本版 194, 詳細版 386)でまとめて数値化を行いました。数値化を行ったことで, 最新の研究成果に応じて改訂版を比較的容易に作成できるようになりました。

現在, Web 上では, 2011 年 2 月より Google マップの上に重ねて表示されています(西岡・野々垣, 2011)。また, 同年 4 月からはスマートフォン, iPad 版も公開されました(北尾ほか, 2011)。さらに, 12 月からは, 地質図データを従来のラスター画像に加えて shape ファイルでもダウンロード可能になっています。また, 重力図, 空中磁気図の WMS 配信も行われていますので, 様々な情報を重ね合わせてシームレス地質情報を有効に利用していただきたいと考えています。

シームレス地質図にアクセスすると第 2 図のようなトップページが現れます。太い破線で囲んだところをクリックすればグーグルマップに重ねられたシームレス地質図が現れます。ぜひご覧になってみてください。

## 文 献

- 青木奈緒(2005)動くとき, 動くもの。講談社文庫, 東京, 333p.
- 北尾 馨・西岡芳晴・根本達也・川畑大作(2011) モバイル環境に最適化したシームレス地質図配信サービス。日本情報地質学会誌, 22, no. 2, 60-61.
- 幸田 文(1994)崩れ。講談社文庫, 東京, 206p.
- 西岡芳晴・野々垣(眞坂)淑恵(2011) 新タイルサービスの考案とシームレス地質図への適用。日本情報地質学会誌, 22, no. 2, 56-59.
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)(2009) 20 万分の 1 日本シームレス地質図 DVD 版。数値地質図 G-16.
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)(2012) 20 万分の 1 日本シームレス地質図データベース(2012 年 6 月 15 日版)。産業技術総合研究所研究情報公開データベース DB084, 産業技術総合研究所地質調査総合センター, <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db084/> (2012/06/15 確認)
- 脇田浩二・井川敏恵・宝田晋治(2006) 新しいコンセプトによる 20 万分の 1 日本シームレス地質図。地質ニュース, no. 620, 27-41.
- 脇田浩二・井川敏恵・宝田晋治・伏島祐一郎(2008) シームレスな 20 万分の 1 日本地質図の作成とウェブ配信—地質図情報の利便性向上と有益性拡大を目指して—。Synthesiology, 1, no. 2, 82-93.

---

MORIJI Rie, NAKAGAWA Mitsuru and SAITO Makoto (2012) Seamless Digital Map of Japan shows landslide slopes in "KUZURE" written by Aya Koda.

---

(受付: 2012 年 5 月 29 日)